

本郡ハ、和名抄ノ時ヨリ、十五郷ノ大郡ニテ、地勢大洋ニ臨ミ、東常陸ト界ル内海アリ、南椿海ノ未ダ田地トナラザリシ已前ナレバ、匝瑳郡ト入海ヲ隔テ界セリ、天正ノ檢田ニ至リ、僅ニ抄ノ六郷ノ地ヲ存シテ、其九郷ノ地ハ、香取郡ニ隸セシ故ニ、今ハ萬石餘ノ小郡トナレリ、サレド永祿ノ頃マデモ、大倉以東本郡ナリシコトハ、海上八幡宮永祿年中ノ祭事記ニ見エタリ、

〔東大寺正倉院文書 四十四〕謹解 申請海上郡大領司仕奉事

中宮舍人左京七條人、從八位下海上國造他田日奉部直神護我、下總國海上郡大領司爾仕奉止申故波、神護我祖父小乙下忍難波朝廷德○孝少領司爾仕奉支、父追廣肆宮麻呂飛鳥朝廷武○天少領司爾仕奉支、又外正八位上給氏藤原朝廷持統○大領司爾仕奉支、兄外從六位下勳十二等國足、奈良朝庭明○元大領司爾仕奉支、神護我仕奉狀故兵部卿從三位藤原卿位分資人、始養老二年至神龜五年十一月、中宮舍人、始天平元年至今廿年、合卅一歲、是以祖父父兄良我仕奉郡留次爾在故爾海上郡大領司爾仕奉止申、

〔萬葉集 二十〕天平勝寶七歲乙未二月、相替遣筑紫諸國防人等歌、
阿加等伎乃加波多例等枳爾之麻加枳乎己枳爾之布禰乃他都枳之良受母、

右一首助丁海上郡海上國造他田日奉直得大理、

〔萬葉集抄 十四〕上總國にいまは海北海南といふは、ふるき海上の郡なりと申す、

香取郡

〔郡名考〕下總 香取カトリ カントリ

〔下總國舊事考 八〕香取郡和名抄 訓 加止里

名義ハ、萬葉集ニ、卷十一 大船、香取、海愼下、何有人物不念有、ト云歌ニヨリテ、楫取ノ義トシ、應安中

海夫文書ニ、常陸下總ノ津々浦々、古來ヨリ香取神宮ノ所務ナルヲ證トシ海夫ノコト別或ハ續

千載集藤原定家卿ノ、夏衣香取ノ浦ノウタ、ネニ波ノヨル、カヨウ秋風ト云歌ニヨリテ、續